

# エイズ治療拠点病院医療従事者 海外実地研修報告書

## 1 研修参加者

所属病院名：国立病院機構仙台医療センター

職名：医師

氏名：遠藤 文庫

## 2 研修日程：2015年11月7日～11月22日（移動日を含む）

## 3 研修の内容

- Dr. FeldmanによるHIV, AIDSの疫学, HIVの予防のためにサンフランシスコがしてきたこと（歴史）などの講義
- University of Pacific (UOP) Dental Schoolにて
  - 感染コントロールについての講義
  - インプラント挿入の手技の見学
- Dr. EdelsteinによるHIVのプライマリーケアについての講義
- AさんによるHIV(+)として生きていくことについての講義
- Dr. Celloによる内視鏡のクリーニングの仕方についての講義（感染症を考慮した洗浄法）
- チームでHIV(+)の方をサポートしていくことについての講義（チームミーティングの見学を含む）
- AIDSの拡散を予防するために、街頭にバスを停めて、その中でHIVの検査をしていたことの見学
- Dr. ZevinによるホームレスでHIV(+)の方のケアについての講義
- AIDSの後遺症などで、独り暮らしはできずにケアホームで暮らしている方の施設見学
- “Behavior change”というコンセプトのもとで患者とかかわることについての講義
- Highland HospitalでのDr. Edelsteinの外来診療見学
- UCSFでの歯科医のカンファレンス参加
- アメリカの医療保険制度についての講義
- “And the Band Played On”というサンフランシスコでHIV, AIDSが感染, 拡散, 大流行した時代の映画の鑑賞
- 精神科領域からみたHIV/AIDS患者の治療についてのカンファレンスに参加
- SF General Hospitalでの高齢HIV患者の治療についての講義
- HIV(+)のagingについて, 脳科学の観点からの講義
- HIV(+)者の薬物中毒者のサポートグループについての講義
- 50歳以上のHIV(+)者のサポートについての講義
- 参加者のプレゼンテーション

#### 4 研修の成果・感想

今回、この研修に参加することにより特に印象に残ったことは、沢山の職種の方が、多方面から、HIV(+)患者にかかわってサポートをしたり、HIVの拡散予防に尽力しているということでした。

日本では、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどが、どちらかという縦の連携で成り立っているのに対し、サンフランシスコでは、横の連携で、医師の指示で何かを行うのではなく、自分のできることをその担当者が誇りをもってやっていました。また、HIVに携わるすべての方々の熱意を感じることができました(仕事だからやるという領域を超えていたと思います)。携わる方や市民の方がボランティアに参加するなど、すべての皆さんのボランティア精神も学ばされました。日本とはだいぶ違うところだと思います。

サンフランシスコはLGBTが多く住んでいるところであり、そういう方たちに対する差別も少なく、また、サポートシステムも非常に充実していました。LGBT社会の雰囲気なども感じ取ることができて、有意義でした。

一時期はHIVからAIDSが発症し、沢山の死亡者がいるような時代でしたが、現在では、薬の開発も進み、薬を飲みさえすればAIDSで命を落とすことはなくなってきています。しかしながら、薬剤を継続して飲むことの問題なども発生してきており、また、HIV(+)の方はHIV(-)の方に比べると体のagingがはやく訪れるなど様々な問題も発生しているようです。ただし、新しい問題が発生すれば、それを解消するシステムをすぐに作ったりなど、対応の素早さにも驚きました。

継続して薬を飲めない方、定期的に外来に来られない方を町の中に探しに行ったりなどのサービスシステムもあり、ただただ感心させられるばかりでした。

机上の学びではなく、実際に現地に行って、どういう取り組みをしているのか、どういう医療がなされているのか、どういうボランティアシステムがあるのかなどを目の当たりにし、体験することができて、沢山のものを肌を通して感じ、得ることができ、大変有意義なものでした。